Take Free

2016.November

05

HONMOKU TIMES

本牧アートプロジェクト2016 開催中！

ディレクターズコラム「花売りの男の子が教えてくれたこと」

集まれ、本牧の子どもたち！

本牧 People インタビュー

Photo by amano studio

honmoku-art.jp

本牧アートプロジェクト2013 石神夏希作品「Up on a Mountain」 ©本牧山頂公園

ディレクターズコラム

Director's Column

花売りの男の子が教えてくれたこと

本牧アートプロジェクト2016 ディレクター
石神夏希

Photo by Kota Sugawara

2016年の5月〜6月、私は演劇作品の制作のためフィリピンに滞在していました。首都マニラで開催される演劇祭に招かれ、現地の影絵の劇団とパートナーを組んで対話や創作を続けていたのです。私たちがつくったのは『SOMATO』という作品。走馬灯は、死ぬ直前の一瞬に一生を振り返るといわれるフラッシュバックです。マニラのさまざまなコミュニティの人たちを劇場に集めて、彼ら自身の走馬灯をモチーフに等身大の回転灯籠をつくろう、その創作過程を演劇として公開しようと考えました。

Photo by Kota Sugawara

当日は劇場に、元ストリートチルドレンの女の子たちやゴミ山の町で仕事を作ろうと奮闘しているお母さんたちなど、大都市マニラの急激な成長から弾き飛ばされてしまった人たちが集まりました。最後にやってきたのは、花売りの家族。フィリピンのお通夜に欠かせないサンパギータの花を売りに来てもらったのです。マニラの路上にいると小さな子どもたちが寄ってきて、口々に花を買ってと追ってきます。根負けして買おうとすると、べらぼうに高い。その花を、まとめて買うから安く（適正価格に）してくれ、その代わり子どもたちに影絵を見せてあげるから、と交渉して劇場へ招いたのでした。

Photo by Kota Sugawara

本当に来てくれるかどうか当日まで分かりませんでしたが、彼らは家族総出でやってきました。その中に「花はもう全部買ったから売らなくていいんだよ」と言っても、こわばった表情で花を売りつけようとしていた小さな男の子がいました。あなたも作ってみたら？と材料を渡すと、お父さんと一緒に影絵を作って遊び始めました。彼は翌日もやってきて、上演を最前列で食い入るように見つめ、自分の作った影絵で飛び入り出演もしました。終演後、彼は私のところへやってきて、ぎゅーっと抱きしめてくれました。

彼らに娯楽がない、と考えるのは間違いです。掘っ立て小屋に住んでいるのにスマホで動画を見ている人だっています（経済成長著しいフィリピンでは、そんな不思議な状況が起きています）。それに、子どもは遊びを発明する天才です。では彼にとって何がそんなに面白かったのか。私は「表現する」ことじゃないか、と思います。贈り物みたいに、誰かに見せてあげること、誰かに見せてもらうことも素敵です。だけど私たちは表現を通して、自分で自分の心を慰めたり、生きる力を得ることができる。他の誰かにもらわなくても。私はそれが表現というものの力かもしれない、と思います。

Photo by Kota Sugawara

今年も本牧で、子どもたちと共につくる作品やワークショップがいくつか開催されます。子どもたち一人ひとりが自分の心を喜ばせる、そんな体験がたくさん生まれることを願っています。

Photo by Kota Sugawara

いしがみ・なつき
1980年東京生まれ。1999年より演劇集団「ペピン結構設計」を中心に劇作家として活動。2002年『東京の米』にて第2回かながわ戯曲賞最優秀賞受賞。近年はテナントビル、住宅、商店街などでのサイト・スペシフィックな演劇上演、横浜、北九州、高松などで地域に根ざしたアートプロジェクトの企画・滞在制作や、建築やまちでの暮らしに関するリサーチ・執筆・企画など、「場所」と「物語」を行き来しながら活動している。「本牧アートプロジェク」には、2013年の第1回から毎年参加。2015年には、街の人たちを主役に据えた『ギブ・ミー・チョコレート！』を企画・演出。

チャレンジ

Challenge

集まれ、本牧の子どもたち！

本牧アートプロジェクト・演劇ワークショップ
参加キッズ募集中

本牧アートプロジェクトは、子どもたちにたくさんのワクワクを感じてもらいたい。キッズプログラムでは、いろいろな視点やいろいろな閃きを、創作行為を通して発見するワークショップを開催しています。

演劇の想像力は、まだ見ぬ世界や未来のことにも広げられます。そこで、今年の演劇ワークショップは、我がまち・本牧の未来を思い描いてみます。参加する子どもたちそれぞれの発想を生かして、言葉やからだを使って遊んだり、お友達と力を合わせることで、架空の本牧を舞台とした演劇をつくります。

会場は、もと映画館だった「HONMOKU AREA-2」です。演劇を通したクリエイティブな遊びの時間を一緒に体験しましょう。

本牧アートプロジェクト2013：こそあど＠ムラーラ本牧
Photo by Hideo Mori

日時：① 11月19日[土] 10:00-11:30　② 11月26日[土] 10:00-11:30　③ 12月3日[土] 14:00-15:30
場所：HONMOKU AREA-2（住所：中区本牧原14-1 本牧6番街2F／バス停「和田山口」から1分）
講師：石神夏希、ペピン結構設計メンバー、他／対象：小学生
参加費：1回 500円／見学参加 300円（保護者は無料）
＊基本は3回連続参加ですが、単発参加も可能です。お気軽にご相談ください。
参加方法：(1)参加日程 (2)氏名 (3)年齢・性別 (4)連絡先（住所・電話番号）を、以下のアドレスにメール申込
詳細・お問い合わせ：NPO法人Offsite Dance Project　E-mail: info@honmoku-art.jp
＊本ワークショップの参加者は、本牧エリアー帯で開催する町歩きの演劇作品『ギブ・ミー・チョコレート！』（12月10日・11日）のメンバーとして出演可能です（参加費無料／応相談）。

Wanted

【提携企画】

こどもディスコ Season2
キッズダンサー募集中

昨年の本牧AIRアーティストの内木里美が企画した参加型プロジェクト「こどもディスコ」。かつての本牧が文化発信基地だった頃に流行っていたディスコをキーワードに、子どもたちからお年寄りまでたくさんの地域住民を巻き込んだプロジェクトが、再び本牧アートプロジェクトに登場します。今年は、このプロジェクトで繋がった人たちと新たに「ArtDisco（アートディスコ）」を結成。11月からワークショップを行い、12月17日にHONMOKU AREA-2で発表します。詳細は、ArtDiscoまで。

日時：11月6日[日]・19日[土]・20日[日]・27日[日]、12月3日[土]・10日[土]・17日[土]発表
場所：本牧中学校コミュニティハウス、大鳥中学校コミュニティハウス
講師ダンサー：内木里美／対象：小学生4年生〜中学校3年生／参加費：無料
詳細・お問い合わせ：ArtDisco　E-mail: artdisco2@gmail.com

昨年のこどもディスコ @HONMOKU AREA-2
Photo by Hideo Mori

活動リポート

Report

写真：三渓園より提供

5th本牧かぼちゃまつり連動企画

メリーゴーランドがやってきた！

かつて米軍ベースキャンプがあり、人々が50年以上前からハロウィンに親しんでいた本牧。何度か途絶えたものの、2012年に復活した「本牧かぼちゃまつり」は今年も大賑わい。スタンプラリーでは、イオン本牧のイスパニア広場をスタートに、仮装した子どもたちや親子連れなど約1000名が町をめぐり、ゴールである三渓園の旧燈明寺本堂を目指しました。その本堂の前に、本牧アートプロジェクトの移動式メリーゴーランドが出現するという仕掛け。国の重要文化財である室町時代建築と現代的なメリーゴーランドのミスマッチに三渓園を訪れた一般の人たちもびっくり！ゴールを果たした子どもたちにとっては、メリーゴーランドが一番のご褒美になったようです。

《メリーゴーランド基金：寄付金募集中！詳細はfacebookにて》

本牧People

フェンスの向こうから見た本牧【第三話】

Interview

八木弘之さんインタビュー

かつてはアロハカフェの店長を務め、1997 年に本牧の象徴的なバーである IG（イタリアンガーデン）を引き継いだ八木弘之さん。本牧のシンボルが語る、青春時代の本牧、そしてこれから。

IG と八木さんの愛車（赤のオープンカー）

――本牧にずっと暮らしていますね。

本牧に生まれちゃったからねえ。東京にも簡単に行けてしまうし、東京への憧れとかはなかったよね。昔は六本木、原宿とかでも遊んでいたけれど本牧の方がイケてたからね。ここは用心棒を連れて遊ぶような人ばかりがいて、東京よりももっと刺激的な場所だったんだよ。

みんな本牧はアメリカだって言うけど、本当は西洋文化なんだよね。横浜が開港してから本牧村にもイギリス人だったり、フランス人、ロシア人、ドイツ人、ギリシャ人、インド人らが入って来て、それからここに住む人は年代ごとに様々に変わっている。もちろん中国人や韓国人などもいたけど、それぞれの文化であったり、住んでいた人たちの子孫が残っていて、今の本牧まで続いているんだよ。

その土壌のおかげで、本牧をはじめとした横浜はどこよりも米軍基地ともうまくやっていけていたし、どこから来る人たちも自然と受け入れることができるんだよ。

――アロハカフェを始めたのが 1976 年。22 歳の時と聞きました。

昔はアパレルで働いていて、夜中の2時頃までジーパンを作っていたんだけど、二十歳そこそこの若者が家にまっすぐ帰りたくないじゃん？ でも僕はお酒が飲めないから、バーに行ってコーヒーとかコーラを頼んでも何杯も飲むわけではないし、肩身が狭かったんだよね。

小港にあったアロハカフェは 2014 年に閉店。本牧宮原に移転した。

そこで、帰りに寄れるお店がないなら自分で作っちゃえばいいじゃんと思って当時勤めていた会社の社長の植竹さんと作ったのが、アロハカフェ。でもイタリアンガーデンみたいな不良の集まるようないかつい店にはしたくなかったから今までの本牧とは違った、色んな人が来れるようなお店にしたんだよ。

始めてからは東京の友達が車で来たり、モデルたちが来るようになってさ。友人の雑誌の編集者を連れて来るようになって、Popeyeみたいな雑誌に載っちゃったりするとまた人が増えて、行列のできるお店になったんだよ。

――これからの本牧にどうなって欲しいですか？

横浜市のカジノ計画には期待してるよ。日本のラスベガスみたいになればいいなぁと。根岸のコンビナートが閉鎖を検討しているらしくブリティッシュ式の競馬場とショッピングモールにするとか、根岸の競馬場をドッグレース場するとか、みなとみらいを競

八木弘之さん

艇ではないオーストラリアでやっているようなボートレース場にするとか。

こんな不良じみたことばかり言ってちゃ怒られるから、返還される根岸のベースを横浜市立大学のキャンパスにして国際学部も作って、留学生にいっぱい来てもらうのもいいんじゃないかな。本牧の人は外国人を受け入れる土壌が整っているわけだし、いい思いをして帰ってもらって、その子たちが偉くなって日本に恩返ししてもらえば外交もうまくいくんじゃないかな？（笑）横浜は上品なギャンブル、観光、中華街。本牧は学園の町ってのはどうだろう？

（聞き手：上野耕太郎／IGにて）

Sponsors

貝焼和光 横浜元町店 忘年会承り中
横浜市中区石川町1-43-2 Shoukeiビル2F
Tel：080-4176-5151
営業時間 17：00～ 完全ご予約制 不定休
http://wako-power.com/

本牧玉家
〒 231-0824
横浜市中区本牧三之谷1-14
Tel : 045-621-0407
http://honmoku-tamaya.com/
日中友好食処 本牧 玉家 和食/地魚/中華

株式会社 パインバレー
横浜市中区本牧原12-1 ベイタウン本牧5番街1F
Tel : 045-309-6320 / Fax 045-305-4006
http://yokohama-pinevalley.com/

Honmoku Cake-ya yoko
〒231-0843
横浜市中区本郷町 1-31
Tel：045-624-1014
フリーダイヤル：0120-455014
営業時間 9:00～20:00（火曜定休）
オリジナルケーキ承ります

本牧葬儀社 本牧ホール
〒231-0806 横浜市中区本牧町 2-323
Tel：0120-4580-76
（フリーダイヤル：よこはまなむ）
http://www.honmoku.co.jp/
詳しくは、Webで！

イオン本牧3番街 **大谷不動産**
お宝電話番号 045-621-1234 で答える
① 不動産仲介 ② 郷土史公開
③ 法律家紹介 ④ 路線図贈呈
地元なんでも相談室
室長 大谷 卓雄
横浜人図鑑 大谷卓雄 検索

株式会社 エスタディオ ホールディングス
感動を創造する
総合エンターティメント企業
estadio HLDGS.
〒231-0013 横浜市中区住吉町4-45-1 関内トーセイビル 6階
Tel：045-662-1521（代表） http://www.estadio.jp/

編集後記

今号は「地域と子ども」がテーマです。11月から子ども向けの演劇とダンスのワークショップが始まります。奮ってご参加ください。また、インタビューでは本牧の顔であるIGの八木さんに登場していただき、感謝です。本牧アンバサダーには新メンバーも加わり、最終月に向けて準備を進めています。お楽しみに！

HONMOKU TIMES 05
2016年11月1日発行
アートディレクション：阿部太一／カバー写真：森日出夫／イスラトレーション：松橋 泉
編集・発行：NPO法人 Offsite Dance Project
〒231-0834 横浜市中区池袋10-1-202 Tel.090-6346-5820 Fax.045-877-7838 E-mail: info@offsite-dance.jp

本牧アートプロジェクト2016
主催：NPO法人 Offsite Dance Project、本牧アートプロジェクト実行委員会
助成：横浜市地域文化サポート事業・ヨコハマアートサイト 2016、子どもゆめ基金 共催：HOCS（本牧コミュニティ・ステーション）、三溪園
特別協賛：株式会社エスタディオホールディングス 後援：横浜市文化観光局、大鳥中学校コミュニティハウス、本牧中学校コミュニティハウス
協賛：大谷不動産、本牧 玉家、株式会社パインバレー、貝焼和光 横浜元町店、株式会社美濃屋あられ製造本舗、株式会社本牧葬儀社、Honmoku cake-ya yoko、kuusen

ヨコハマ アートサイト
「子どもゆめ基金助成活動」 体験の風をおこそう
estadio HLDGS.
Offsite Dance Project